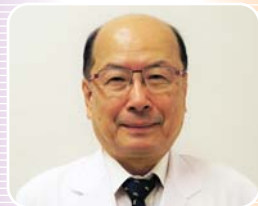
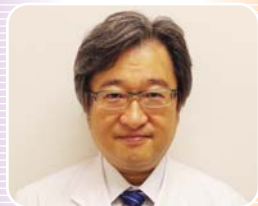


* 呼吸器病センタースタッフのご紹介 *



呼吸器病センター長 呼吸器内科 主任部長
粟屋 幸一(あわや ゆきかず)

- 専門分野
- 呼吸器疾患全般 ○間質性肺疾患 ○感染症
- 専門医認定/資格など
- 厚生労働省臨床研修指導医 プログラム責任者
 - 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 - 日本呼吸器学会専門医・指導医
 - 日本感染症学会専門医・指導医



呼吸器病センター(内科) 診療部長
高尾 匡(たかお ただし)

- 専門分野
- 呼吸器疾患全般
- 専門医認定/資格など
- 日本内科学会認定内科医
 - 日本呼吸器学会専門医・指導医
 - 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
 - 日本感染症学会指導医
 - 日本アレルギー学会専門医
 - 日本がん治療認定医機構がん治療認定



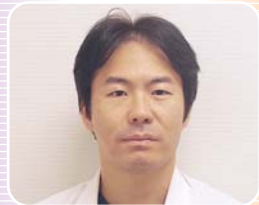
呼吸器病センター(外科) 診療部長
川野 亮二(かわの りょうじ)

- 専門分野
- 呼吸器外科
- 専門医認定/資格など
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・気管支鏡指導医
 - 日本呼吸器外科学会専門医・指導医・評議員
 - 日本外科学会認定・専門医・指導医
 - 日本がん治療認定機構がん治療認定医・暫定教育医
 - 日本レーザー医学会レーザー専門医
 - 日本禁煙学会認定指導医
 - 日本呼吸器学会専門医



SASセンター長
高橋 保博(たかはし やすひろ)

- 専門分野
- 呼吸器外科 ○睡眠時無呼吸症候群



呼吸器病センター(外科) 医長
小林 零(こばやし れい)

- 専門分野
- 呼吸器外科
- 専門医認定/資格など
- 日本外科学会専門医
 - 日本呼吸器外科学会専門医
 - 日本呼吸器学会専門医
 - 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
 - 肺癌CT検診認定医機構認定医
 - 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

IMSグループからのお知らせ

医療・介護のことでお悩みはありませんか?

IMSグループイムス総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けいたします。詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ[メールフォーム]よりお問い合わせください。

FREE 0800-800-1632 **03-3989-1141** (代表)

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。受付時間/平日8:30~17:30 土曜日8:30~12:30(日祝・年末年始休み)

イムス総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧ください。

<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-11 オーク池袋ビルディング8F

板橋中央総合病院 地域広報誌
PLAZA IMS(プラザイムス) Vol.49 秋号
発行:板橋中央総合病院 地域医療連携室
発行日:2017年10月

IMS(イムス)グループ 医療法人社団 明芳会
板橋中央総合病院
〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-12-7
TEL.03(3967)1181

— 理念 —
安全で最適な医療を提供し、
「愛し愛される病院」として社会に貢献する。

— 基本方針 —

1. 急性期病院として1人でも多くの患者さまのニーズに応えるために全力を尽くす。
2. 他の組織や施設と密接に連携してシームレスな医療を構築し、地域のニーズに応える。
3. 接遇マナーとコミュニケーション能力を備えた職員を尊重し、かつ育成する。



プラザイムス 秋号 Vol.49

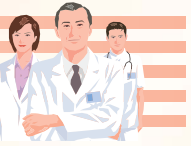
板橋中央総合病院

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

呼吸器病センター開設にあたって

現代の医療は、専門分化が進むと同時にそれぞれの専門性を生かした集学的治療が求められています。呼吸器疾患についても内科・外科の垣根を越えたシームレスな診療が必要です。当院では平成29年6月1日、呼吸器病センターを開設し、今まで以上に地域の皆様のニーズに応え、迅速かつ良質な医療を提供できるよう体制を整えました。呼吸器病センター職員一丸となって地域に貢献出来るよう全力を尽くします。





呼吸器病センターの取り組み

呼吸器内科

地域の救急医療を担う呼吸器内科として、近隣の医療機関と連携しながら、幅広く急性期医療を担っています。呼吸器疾患と一言でいっても、病気の種類は大変多く、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎などの慢性期の管理から、急性増悪時の治療まで対応します。また必要に応じて在宅酸素療法の導入、管理も行います。肺炎、肺真菌症など呼吸器感染症の治療にも力を入れています。肺がんは近年増加傾向が著しく、健

康診断で異常があると言われた方や、血痰や慢性の咳、痰などの症状がある方に高分解能CT検査や気管支鏡検査などで診断を確定し、適切な治療を行います。高齢化社会を迎え、肺がん、慢性呼吸器疾患、肺炎、気管支喘息などアレルギー性疾患は増加の一途を辿っており、地域医療における呼吸器内科の果たすべき役割はますます重要になってきました。外科的治療が必要な場合にも呼吸器外科との迅速な連携が可能ですので安心して受診して下さい。



救急科(ER)との連携

一方、当院救急科では年間約8000台以上の救急車を受け入れ、約17000人の救急患者を受け入れています。各専門科との垣根がなく、医師・看護師・救急救命士が迅速かつ丁寧な診療を行

います。呼吸器領域の救急についても、常勤救急専門医と呼吸器病センター医師が協力してあらゆるケースに対応できるような態勢を整えています。



呼吸器外科

現在の肺がん診療は、大きく変わりつつあります。早期肺がんに対して胸腔鏡手術で低侵襲手術を目指すのみならず、そのままでは切除不能である肺がんに対しては抗がん剤投与によって腫瘍を縮小させたのち、完全切除を行うというサルベージ手術も積極的に行われるようになってきました。また、抗がん剤や分子標的薬を選択する上で、腫瘍の遺伝子解析が有用であることも分かってきました。こうした個々の特性に応じた治療、いわゆる個別化医療が重要視されてきた今日、呼吸器外科の役割は従来の腫瘍を切除して完全に治癒させることのみならず、化学療法の方針決定に必要な組織や遺伝子の情報を得る手段として、益々重要なものになってきています。



呼吸器外科が専門としているのは、主に肺がん、気胸、縦隔腫瘍などの胸部疾患です。健康診断で胸部レントゲン異常を指摘された方、肺がんについてのセカンドオピニオンを希望される方など、是非ご相談下さい。また、肺がん治療における術後再発ケースや補助化学療法適応例に

は当科で抗がん剤治療を施行し、放射線治療が必要な場合には、放射線治療科の協力のもとに積極的に導入しています。睡眠時無呼吸センターでは簡易型、終夜型睡眠ポリグラフィー検査を実施し、持続陽圧呼吸療法(CPAP)を積極的に導入しています。



総合診療科との連携

わが国では、日常的に頻度の高い疾病に対して、適切な初期治療を行い、必要に応じて各専門科と連携して包括的かつ継続的な医療を提供する、いわゆる「総合医」の必要性が謳われるようになりました。「総合医」は地域の需要をよく知り、地域全体の健康向上に貢献することも期待されています。当院では2015年に「総合診療科」が開設され、呼吸器病センター医師と総合医との協力のもと呼吸器疾患の初期治療について幅広く受け入れが可能となっています。

